

特集.6

私達が取り組む「協働」について

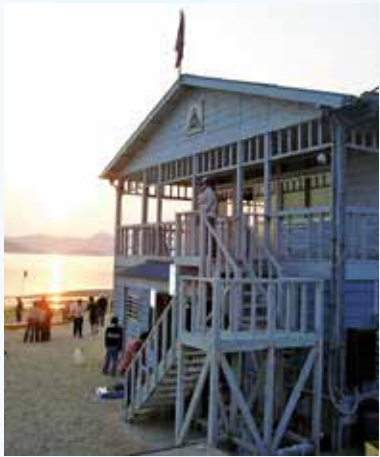
(松山市)
NPO法人いよココロザシ大学学長 泉谷 昇



こんにちは、いよココロザシ大学の泉谷昇です。「誰でも先生、誰でも生徒、どこでもキャンパス」を掲げる私達は、県内全域をキャンパスに愛媛の魅力を「授業」という形式で発掘・共有・発信しています。これまでの経験から「協働の事例」を紹介します。

●事例① 愛媛県十いよココロザシ大学「フィルム・コミッション」

フィルム・コミッション（映画・映像作品の撮影誘致・支援）は、愛媛県観光



がんばっていきまっしょい

物産課との協働事業です。撮影の誘致・支援には多様な協力が必要で、互いに得意・専門分野を持ち寄り取組んでいます。例えば、愛媛県は市町や警察、消防署などの関係者へ相談・依頼しやすい立場です。しかし、NPOが同じことをする場合、団体説明、相談の主旨説明など「本題に入る前」に時間を要してしまうのが現実です。また「60人分の弁当を肉と魚で30人前ずつ分けてくれる、美味しい弁当」の手配は、行政では扱いにくい内容ですが、NPOなら会員に仕出し屋がいたり、実績から適切な情報提供ができません。「撮影の成功」という共通の目的へ互いを補完し合えるのが協働の基本です。

●事例② 萬翠荘十エブソン販売十市民十いよココロザシ大学「空想美術館」

重要文化財の萬翠荘を身近に感じたい。ただきたい関係者。愛媛の魅力発信に協力したいエブソン販売。ボランティアで自己表現したい市民。この三者を「空想

美術館」というイベントで結びつけました。

このイベントで持ったのは、萬翠荘は「場所」と「機能」。エブソン販売はコンサートなどで使用する「大型プロジェクター3台」と「投影ノウハウ」。ボランティア参加したい市民は萬翠荘に投影したい絵を描きました。私達は全体の設計と運営役でした。



空想美術館

このイベントは他に「デザイン会社」「音響会社」「運営ボランティア」も加わる大掛かりな体制でしたが、一人一人が「自分の仕事化」し主体的に取組めたことが成功の要因でした。主体性を出すために「成功イメージを明確に共有した」



●事例③ 生産者+いよココロザシ大学
【愛顔の食卓】

農業や漁業など愛媛県の生産者が生産（二次）から加工（二次）、流通・販売（三次）まで関わる取組みを「6次化産業」といいます。ジュースやジャム、調味料、梅干し、お茶、海苔、ソーセージ、チーズ、酒、燻製などは6次化製品です。これらの商品が持つ魅力と可能性は大きく、愛媛県初となる「生産者の顔が見える商品の専門店」を8月25日に「愛顔の食卓」という屋号で花園町5の4にオープンしました。40以上の生産者が出品し、みなさん

ことで各自が専門性を発揮できました。結果、空想美術館は700名以上の市民から計732点の作品が集まり、二日間の期間中に1000名以上が来場しました。多様な複数の専門家による協働と新しいボランティアの形を実現できました。

の食卓とをつなぐ架け橋です。本事業は従来の「協働」よりも事業性が高い取組みで、生産者にとっても我々にとっても「新たな市場や価値を創出する」野心的な試みです。一つ一つの商品には物語があり、食卓や手土産で話題になること間違いナシの商品をぜひ、ご覧ください。

3つの事例を紹介しましたが、ここで注意すべき点は「協働は目的ではなく手段」ということです。協力者と「協働の先に描くコト」が共有できなければ単なる「請け負い」なので気をつけましょう。どうすれば多様な協力者を巻き込み、協働から効果や成果を創出できるか？整理してみました。

① 目的を共有する。

何のために協働するのか？協力者それぞれに「目的」があります。目的の全てが一緒なはずがありません。しかし、それぞれの目的に「共通要素」を見つけたら、それは「協働の意義」です。価値観を一つにするのでなく、価値観をつなぐ感じでしょうか。

② できないことを明確にする。

私達は「できること」をウリにしたがりますが、全てできるはずもなく、苦手なこと、できないことがあります。しかし、自分達に苦手なこと、できないことは他者の得意なこと、できることかもしれません。

れません。できないことの明確化は、他者が協力できる領域を創出します。

③ アウトプットではなくアウトカム。

「協働」で取組んだ結果は単なる「アウトプット（出力）」です。協働の結果を効果や成果と思うのは勘違いです。アウトプットで創出された「価値（アウトカム）」に着目しましょう。創出された価値は、「取組む前と後で変化した事象」と、いい換えることもできます。

④ ワクワクさせる。

協働するなら楽しく取組みたいと思う私は、事業に「ワクワク感」を詰め込みます。未だ見えない効果や成果の価値、関係者が喜ぶ姿、受益者が驚く姿など想像するだけでワクワクですが、このワクワクは「モチベーション（やる気）」の維持にも効果的です。

⑤ 四方よし

「売り手よし、買い手よし、世間よし」は三方よしですが、協働は「売り手よし、買い手よし、世間よし、未来よし」を実現できる事業と思います。協働するならば、よりよい愛媛（未来）の実現を関係者全員で意識してもよいと思います。

いかがだったでしょうか？私達の事例が少しでも協働推進の役に立てば嬉しいです。